



2011.3.11 東日本大震災

# 現地支援委員会

ニュースレター

from 東北

「第7号」

2013年6月12日

全国の諸教会の皆様、いつもお祈りと献金によるお支えと励ましをありがとうございます。

震災から2年3か月が経ちましたが、ご存知のように、被災された方々の厳しい状況は続いています。現地支援委員会が発行するニュースレターでは、被災された方々を訪問させていただく現地の教会が、実際に見たり、直接被災された方とお話をして感じてきたことを、引き続きお伝えしていきたいと願っています。今回からは、1号のニュースレターの中で、1つ又は2つの支援活動の様子にしばってお知らせしていきます。

一人でも多くの方にお読みいただければ幸いです。皆様に心から感謝して。

## 野田村仮設住宅支援

☞ 仮設のお宅の前のお花たち。お花が好きな方で私たちが訪問する度に楽しませてくださいます。震災前は、お庭でガーデニングを楽しんでいたそうですが、津波で自宅もすべて流されてしまいました。一日も早く本当のお庭でガーデニングができるといいなと思います。



### はじめに

2011年8月から始まった、岩手県九戸郡野田村仮設住宅（野田中地区約110世帯、泉沢地区約30世帯、門前地区約15世帯、米田地区約15世帯、下安家地区8世帯）訪問ボランティアも、今回（5月17日）で22回目となりました。活動日は毎月第3金曜日です。今までこの活動を支えてくださった全国の諸教会の皆様のお祈りとお支えに感謝致します。野田村は岩手県の北部に位置し、八戸市から国道45号線を南下して約1時間30分のところにある、人口約4,000人の海と山に囲まれた自然が豊かな村です。近くに現在放映中のドラマのロケ地があることもあり、今は観光客も増えてきて活気づいています。

☞ (左)集会所でのお茶会の様子。(右)門前地区仮設の戸別訪問の様子。

### 活動内容

現在の私たちの活動は、野田中地区と泉沢地区の集会所でのお茶会です。このお茶会はお茶とお菓子が仮設の皆さんが共におしゃべりの時を持てればということから始まりました。回を重ねるごとに定着し、多くの方が参加して下さいます。参加して下さる方に感想を尋ねると、「何もせずリラックスできるこのひと時が楽しい。待ち遠しい」と言ってくださいました。何かをすることも大事ですが、こうしたおしゃべりの時が仮設の方々の楽しいひと時となっていることを知り、活動の必要性を教えられました。もう一つの大切な働きが戸別訪問です。門前、米田、下安家の仮設には集会所が少なく、集会所があったとしても皆さんが集まる催しものがほとんどありません。お土産を配る私たちとほんのひと時でも会話をできることを喜んでくださり、「また来てくださいね」と言ってくださる声に訪問を続けることの必要性を感じています。



### 支援活動とおして

訪問を重ねる毎に仮設の方の人生にふれる機会にあずかります。ボランティアに参加した人が皆、「自分たちが何かをした、ではなく、野田村の人たちから何か多くをいただいた」と感謝の思いを語ります。先日の女性会の例会でも、恵みを分かち合いました。ボランティア参加者一人ひとりにとって、野田村での活動が恵みになっていることは本当に感謝なこと。また毎回多くのボランティアが北海道、青森各地から参加します。初めて顔を合わせる人もいる中、一つの目的の元に集い、活動の前に礼拝をお捧げし、活動後にお祈りをして終わります。共に祈ることを通じてチームのところが一つになり、活動できることの素晴らしさを感じています。



### これからの課題にむけて

震災から2年目の日。野田村での3.11式典に出席させていただきました。村民、ボランティアなど多くの方が集い、悲しみを共にしました。まだ震災の悲しみは癒されません。長い年月を必要とします。復興の道のりは遠く、計画では仮設から出て復興住宅に入るまで最短でも5年かかると言われています。これからも、先の見えない不安の中で暮らしておられる方々と共に過ごし、歩んでいけたらと願います。そして、震災への関心が薄れていく中で、全国の諸教会の皆様には被災地の様子とお支え者の方々の思いをお伝えすることができたらと願います。(鮫バプテスト教会 林健一)

## 気仙沼仮設住宅支援

八戸教会は宮城県気仙沼（気仙沼市長磯前林45-24）の仮設（60戸）を年2回訪問しており、今回5月25日（土）の訪問で4回目を数えます。教会員のご家族が仮設住宅に住んでいることがきっかけで訪問が始まりました。年2回の訪問の内容は、無料ミニバザー、お茶会、手作りコーナー（今回はフォトフレームの飾り付け、ペン立て作り）です。

多くの教会、個人の方々がバザー用の品物、お茶会のためのお菓子、手作りコーナーのための材料等をお送りくださいました。お茶会に来られない方には、お菓子の詰め合わせと洗剤を持って各戸をお訪ねしました。ミニバザーでは、ちょっとした可愛い小物や欲しかったものが見つかるという楽しさを味わっていただけているようです。毎回、被災された方々に、少しでも楽しんでいただきたいという思いで活動しています。不便に耐えながら仮設住宅に住む方々のためにどうぞお祈り下さい。

今回のボランティアには、チーム青森・岩手の教会の他、市内の他教派の教会の方々が参加してくださいました（八戸5人、鮫2人、青森5人、八戸聖書キリスト1人、計13人）。支援の働きを通して教会間の豊かな交流が深められていることも感謝です。今年の10月中旬に第5回ミニバザーとお茶会を予定しており、タオル類、お楽しみ小物など集めています。ぜひ献品のご協力をよろしくお願い致します。（詳しくは、八戸教会までお問い合わせください。）

(八戸バプテスト教会 甲谷裕子+鮫バプテスト教会 林健一)



☞ 全国からの献品でミニバザーを行うことができました。



☞ お茶を飲みながら写真立てを作っています。作業しながら会話が弾みます。